

社会福祉法人恵昭会
幼保連携型認定こども園

きらり園

第52回

地域おこし協力隊が行く！

実は隣のスゴイ人

曾於市内のスゴイ人にスゴイ人を紹介してもらうこのコーナー。前回のスゴイ人、入木田 智聡さんにご紹介いただいたこの方は、「子どもの明るい未来のために幼児教育に取り組むスゴイ人」とのこと。インタビュアーは大村 信夫でお届けします。

【今回のスゴイ人】

きらり園

片田 洋志さん

今回は、末吉町のご出身できらり園の事務長をされている片田洋志さんにお話を伺いました。

中学を卒業後、親元を離れて学生時代を送り、最初に就職したのが東京での不動産業界。様々なお客様と接するうえで大変なこともあったが学生時代を通して剣道で培った忍耐力が自分の下支えになり、乗り越えられてきたそう。

その後、ご両親からそろそろ帰ってきて欲しいと言われ、30歳で曾於市に。不動産の会社を辞める際に上司から「この業界で働けば出来ない仕事はない」と言われて怖いものなんて無かったと養豚の会社に就職しました。経験する全てが新しく充実した日々を送っていた中で、足を大怪我。このまま、この仕事を続けられるだろうかと怪我を抱えて仕事に励んでいました。

そんな中、ご両親が財部町でこども園を開園することに。その準備を手伝い始めた事をきっかけに養豚の仕事から退職し、こども園の運営に専念しました。もともと子どもが好きだったこともあり、全国の研修会に

出席し教育について学習する日々を送っていました。ある日受けた研修会で、「今の日本は、子育てをする環境が整っていない」という講師の言葉が胸に刺さり、園として個人として何が出来るかを考えるように。

「核家族化が進み、地域との関わりが薄くなってきて、地域みんな子育てをするというのがなくなってきたため、親と一緒に子育てする教育環境を整えるのが役目です」と話す片田さん。子どもたちに教育環境を平等に与えてあげたいと思い、定期的に専門の先生を呼び、様々な体験を受ける機会を作っています。

さらに、今まで曾於市には無かった病後児保育を併設したこども園を末吉町で新たに開園予定。今ではどの家庭でも共働きが一般的で、「自分にとって教育とは、人への熱意なんです。少しでもご家族の負担軽減や子どもたちのために動きたいんです」と、親や子どもたちに何が出来るかを考えてたら、この仕事は辞められないと笑顔で話されていました。

実は隣のスゴイ人



▶インタビューを終えて

周りを見渡すと屈託のない笑顔の子どもたち。この子たちの笑顔を見ると、片田さんの熱い思いが園の子どもたちにちゃんと伝わっているんだな—と実感。教育の素晴らしさを再認識した取材でした。



協力隊の今日この頃

2カ月連続の大村です。曾於市立図書館の大隅分館と財部分館で、中学生以下を対象に英語を使ったクイズイベントも無事に終わることが出来ました。今回のイベントは、様々な方々のご協力があつたからこそ出来たイベントでした。本当感謝しかありません。「楽しかったよ！」って声を聞く、本当にやって良かったと思います。2年前は、人に教えるこ

となんて自分にできるのか？と自問自答の日々でした。愛情を持って接すれば接するほど、それを返してくれる子どもたち。最近中学校の卒業生全員から感謝の手紙を頂きました。本当に嬉しく、自分の宝物がひとつ増えました。サポートをしてくださった中学校の先生方にも心から感謝しています。あと任期も1年ちょっと。全力で駆け抜けていくぞー！

